

山谷の結核にかかわって40年



渋谷診療所

名誉所長 今村 昌耕

私は今96歳ですが、現職の時からの継続40年を経た成果の実績を、今年岐阜の第89回日本結核病学会で、「山谷での40年間の結核専門外来、および18年間のDOTS事業の成果」の表題で発表しました。これまで11回山谷の結核関連の報告をしましたが、これで一区切りとさせていただきます。

山谷は台東区の北部地域、一部荒川区も含みますが、社会的弱者と言われる日雇労働者が集まり、仕事探しの寄せ場を形成する労働市場の街でした。このコミュニティはこの十年間で大きく変貌しています。この地区の結核罹患率は、かつては人口10万対1,000を超え、規模が2倍の大阪の愛隣地区に次ぐワーストNo.2と言われていました。

この地に都の運営する城北労働福祉センターがあり、医療費の支払えない大部分の人達が無料で自発的に受診出来る健康相談室（健相室）があります。お手伝いを始めた1975年は1,800人の流動人口が記録されています。

健相室の39年間

1975年から2013年を、3年ごとⅠ～Ⅻ期に分け、健相室の1日平均受診者数、そこでの新発見結核患者数のⅠ期873人（100%）に対する割合の推移を見てみます。平均受診者数は、Ⅰ期は145.8人で、Ⅳ期119.2人と漸減、この状態からⅩ期までは100人前後を継続しています。この間は日雇労働者の街の人口は多分大きな変動が無かったと思います。ちなみに、近年の10年間は受診数は急に減少し、Ⅻ期は23.7人になりました。

新結核患者数はⅠ期873人からⅢ期には501人（57.4%）に減少しました。それまで手つかずに潜在していた患者を治療の軌道にのせたことによる発見患者の減少でしょう。但しその後Ⅷ期までの十数年は、地域に新発生が続き50%台から減りませんでした。これまでに高齢化が起こり、より若い人の流入で既感染者の割合が減り、過去BCG接種者の増加等や、国全体の罹患率の減少、社会環境の改善等の影響か、Ⅷ期270人（30.9%）に、受診者数は100人前後を維持したⅩ期（30年目）の結核新患者数は136人（15.6%）に減少、続くⅫ期（39年目）には37人（4.2%）にまでになりました。

DOTS事業18年間

DOTS開始後の18年間でまとめると、結核患者数は当初Ⅰ期の100%が30.9%に減少した時代から始まりましたが、18年間のDOTS治療患者総数は190人でこの間の患者総数の約3分の1にDOTS外来治療をしたことになります。食べることは自分でかせぐ事が必要だったDOTS以前の外来治療は、日本最悪の成績で、DOTS方式導入後はパラダイス的変化の外来治療と私は表しています。

寄場コミュニティの喪失

近年の都の事業概要によると、(1) 福祉の応急援助相談、即ち宿泊、給食、物品援護、交通費などの相談が、2003年から急落、(2) 2002年の都の路上生活者1,500人（100%）が、2011年に428人（28.5%）に減少、その中で山谷地域は121人、(3) ドヤ宿泊者の9割以上が生活保護を受給しています。今仕事をしている人は、親方から携帯電話での連絡で、住みやすい所に住んで現場に行くようになり、路上生活者も都の収容施設に入れるようになりました。山谷のドヤには生活保護受給者の老人が溜まっています。ここは多くの人の苦しい生きざまの歴史があり、結核患者の残した数字は表のとおりですが、今は従来の寄場コミュニティの消失で、一般化した街並みできれいになりました。

* * *

その昔の社会環境のもと、医師の確保が難しい時に専門集団の結核予防会に週2日医師、看護師、事務各1名の結核専門外来の確保の委託事業を創出した行政に敬意を表します。

且つDOTS事業の委託も、最も実施が適切な対象に、日本で最初に実施出来た行政に敬意を表します。長年月の委託事業の実施に共に協力し合ってきた物故者を含む医師3名と多くの他職種の方々に深甚なる感謝を申し上げます。

表 健康相談室一日平均受診者及び新発見結核患者の推移（1975～2013）

年区分（期）	日平均受診者数（人）	発見結核患者数（人）（%）	年区分（期）	日平均受診者数（人）	発見結核患者数（人）（%）
Ⅰ（'75～'77）	145.8	873（100）	Ⅷ（'96～'98）	106.2	270（30.9）
Ⅱ（'78～'80）	128.5	591（67.7）	Ⅸ（'99～'01）	99.3	181（20.7）
Ⅲ（'81～'83）	135.8	501（57.4）	Ⅹ（'02～'04）	112.5	136（15.6）
Ⅳ（'84～'86）	119.2	398（45.6）	Ⅺ（'05～'07）	91.0	67（7.7）
Ⅴ（'87～'89）	102.1	470（53.8）	Ⅻ（'08～'10）	49.8	63（7.2）
Ⅵ（'90～'92）	84.7	472（54.1）	Ⅻ（'11～'13）	23.7	37（4.2）
Ⅶ（'93～'95）	107.0	457（52.3）	計		4,536